

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターまな星		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 5日		～ 2026年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	57(延べ人数)	(回答者数) 55
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日		～ 2026年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○訪問先施設評価実施期間	2026年 1月 7日		～ 2026年 2月 27日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	47(延べ数)	(回答者数) 39
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育や発達検査を通して対象児の行動を観察したり分析したりしており、十分なアセスメントを基に訪問を実施している。	多職種で子どもを見守ることにより、様々な視点や捉え方によるアセスメントを行い子ども理解を深めている。	訪問の有無に関わらず、就園している方には園での様子を日頃からお聞きするようにする。
2	子どもの発達特性に応じた捉え方や見方について説明することができる。また、具体的な場面における声のかけ方、状況に合わせた支援方法についてアドバイスができる。	療育を通して、子どもが適切な行動を取るために有効と思われる方法は何かを探り、検証している。有効と思われる方法は保護者と共有し、家庭や園での生活に活かしてもらえよう努めている。	療育で使用している絵カードや視覚物等を持参し、有効と思われる方法を具体的にお伝える。
3	訪問については、保護者の希望により実施している。保護者を介することで、三者(保護者・園・事業所)の情報共有の円滑化が図りやすい。	園との情報共有は、保護者の承諾のもとに行うようにしている。	共有する内容は、保護者、園の先生の双方にとって有益であるよう伝え方に留意する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	希望される方が増え、希望されたタイミングで実施することが難しいことがある。	希望はあるが、短期間での訪問が妥当と考えにくい場合、保護者と相談して時期を調整している。	訪問希望がある場合、個々に適したタイミングで実施することを保護者に説明し、了承を得るようにする。
2	園の先生と電話等で対応についてお話できるとお知らせしているが、あまり周知されていない。	年度始まりのオリエンテーションで保護者にお伝えし、その後は訪問を希望された方に随時お知らせしているため、意識されにくいと考えられる。	訪問時に、保護者の承諾があれば電話でのやりとりが可能であることを園の先生にもお伝える。事業所からも保護者の了承を得ておくようにする。